

---

# 天使となった男

Delay

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天使となった男

### 【Nコード】

N5032BA

### 【作者名】

Delay

### 【あらすじ】

少女を庇って死んでしまった男がリリカルなのはの世界に転生する話

## プロローグ（前書き）

ん  
思いつきで投稿してみました、何か変なところがあったらすいませ

## プロローグ

商店街に疲れたような顔をしている一人の少年がいた

「暇だ、何か面白いことないかなあ、・・・まあ、折角商店街に来たんだから何か買ってくか」

と、その少年（俺）はすぐ近くにあるカードショップに足を運んだ。

~~~~~それから一時間後~~~~~

俺はさっきまでの疲れているような顔ではなく喜んでいる顔になっていた

「ここに商店街に来たのは半年ぶりだな、懐かしいもんだ、ちようど欲しかったやつも売ってたからつい買っちゃまったぜ」

欲しかったものが手に入ったのがそんなに嬉しいのか家に帰りながら俺は鼻歌を歌っていた。

家の近くの交差点を渡る直前にトラックが一台信号無視して突っこんできたのを目撃した、交差点を渡ってる人がいなかったら俺はこの場から何事もなかったかのように立ち去ることが出来ただろう、だが俺にはそれが出来なかった、何故なら交差点には少女がトラックに気づかずのんびり歩いていたのである、この状況で分かる

ことはこのままではあの少女が死んでしまうということだけだった

そのことを理解した瞬間俺は少女に向かって走り出した、ある程度鍛えていたおかげか少女を抱え込むことはできたがトラックの運転手は眠っているのか速度は遅くならず逆に速くなっているようだった

「俺だけなら兎も角、何の罪もない子供を殺させてたまるかああああ！！」

と叫んだあと俺はその少女を庇うようにしてトラックに跳ねられた。俺が庇ったからか少女には傷一つない、そのことに安堵しつつ薄れゆく意識の中俺はその少女の頭を撫でながら

「大丈夫かい？怪我はしてないかい？」

そう聞いたそれを聞いた少女は泣きながら頷き無理やり笑顔を作って俺にこう言った

「お兄ちゃん、ありがとう私を助けてくれて」

その言葉を聞いた後俺はゆっくり息を引き取った、その時の顔は死んだとは思えないくらい爽やかだった

これが俺の死因ね、まあとりあえず回想という名の現実逃避は終わったことだしそろそろ現実に目を向けますかな

「おっさん誰よ」

## プロローグ2

ついさつき俺が死んだところまでの回想が終わって俺は今目の前にいる爺さんにあんた誰と問いかけたその返答というのが

「ん？儂か、儂は神じゃ」

という正直かなり痛い発言だった

「なあ爺さんその年になって厨二病発症するなよ病院行った方がいいんじゃないのか？」

少しからかうように言ってみると

「儂は厨二病患者ではない！本物の神様じゃ」

と熱く言ってるので本物の神様だということが分かった。

でもなんでそんな神様の目の前にいるんだろう

「すまんかった！！」

と言うと神様はいきなり俺に土下座してきた、しかも何気に俺の心読んでないかこの神様

それといきなり神様に土下座された俺は多少だが混乱していた

「えつと神様？何で俺なんか土下座なんかしているんですか」

「それはのうお主が庇ったあの少女がいたじゃろう本来ならあの場所で死ぬのはお主じゃなくてあの少女だったようでの、その少女を庇って死んでしまったことを謝りたかったのじゃよ、お主本来なら後70年は生きていることができたからの」

なるほどなるほど本来なら俺は死なずにあの少女が死んでその後70年は生きていたということか

「まあいいか、俺はあの少女を助けることができたら良かったと思っっているし、それで神様、俺はこの後どうするの？地獄行き？それとも天国行き？」

そう俺が神様に聞くと

「そのどちらでもないぞ」

と返されたどゆこと？

「お主には転生してもらつことになっておるからな、ちなみにこれは決定事項じゃ覆ることはありえんからの」

拒否権がないと来ましたかそんならしょうがないな、でも、まあとりあえず

「神様が言ってる転生って二次創作小説に良くあるあれか」

これだけは聞いておく多分そうなると思うけどさ

「そうそうそれそれ、転生するにあたって聞きたい事とかあるかの？願い事は五つまでじゃからの」

あつやっぱりテンプレか

「じゃあ質問するが転生する世界は俺が決めることは可能か？あと何故願い事の数有五つなんだ」

「行く世界の特定はダメじゃが魔法がある世界に転生したいなどの希望はオーケーじゃよ、願い事の数じゃが本来三つが限度なのじゃが今回は特例として二つ増やしたのじゃよ、アニメや漫画の能力も願い事一つ消費すれば手に入るがどうする？世界の希望は願いの一つには入らないからの」

願い事の数有五つか・・・多いなあ、まあとりあえずどんな能力を貰うかだよな、ある程度自由にできてチートに近い能力・・・！！？あれがあつたじゃないか！ある程度自由がきいてチートに近いやつが！

「能力はとりあえず決まったぞ」

「おお、決まったかどんな能力にするんじゃ、王の財宝や無限の剣製ではないのじゃろう」

「当然だろ、そんなのありきたりすぎてつまらん俺が欲しいのは」

「欲しいのは？」

「Angel Beatsの天使、立花かなでのガードスキル

全てとANGEL PLAYERだ」

俺が希望の能力を言うと神様が笑い出した、そんなに可笑しいか？

「今まで色んな転生者を見てきたがここまで儂を愉快的気分にしたのは初めてじゃ！よからうその願い聞き入れた、細かい設定もするか？」

えっいいの？それじゃあ

「ガードスキルだけど、全部完成した状態にしてくんない？ハイモニクスとか未完成のままだと使った時攻撃されそうだし、そんなANGEL PLAYERだけど専用のパソコンか何かくるとありがたい、それとANGEL PLAYERとかで直死の魔眼的なものって作っても問題ないかな」

神様は少し考えた後に

「そういうかなり特殊な能力は歳の数だけなら作ってもいいぞ、それとエンジェルズウィングはちゃんと飛べるようにしたからの」

と言ってくれた、それとエンジェルズウィングで空を飛べるのは嬉しい、ありがと神様、後は容姿に世界の希望、身体能力や魔力などか、頭脳？前世の記憶があれば無問題

「容姿の願い事言っついていいか？ガードスキルやらANGEL PLAYERで気づいていると思うが容姿を立花かなで似せてくれ性別はちゃんと男で頼む」

と言ったら神様が今度は大爆笑した、今回は笑いが長いのでちよつと放置

~~~~~10分後~~~~~

「げほつげほ、お主どんだけかなでちゃん好きなんじゃ、・・・いまお主の体を再構築してかなでちゃんに限りなく似ている男の娘にしておるからな、ほい、終わったぞこれが今のお主の容姿じゃ、あと願ひ事は三つじゃな」

と云つて神様は鏡を出してくれた、おお、立花かなでにそっくりだ・・・ただ目の色が黄色と赤の虹彩異色を除いて、あれかなオリジナルとハーモニクスで出てきたかなでの分身の目の色を組み合わせたのかな多分そうだろ、そう願ひたい、・・・まあそれは置いといて

「世界の希望はまず魔法がある、次に地球がある、次に、日本に生まれる、世界の希望はこれぐらいで次の願ひ事は身体能力や魔力かな」

「言つてみよ」

「まず身体能力だけど初期の頃は同年代の子と同じで訓練すればするほど身体能力が増加、次に魔力だけど転生する世界の主人公のニランク下ぐらいで、その主人公の人間の魔力値が上がらないとこつちも上がらなくてどう頑張つても主人公のニランクしたまでしか上がらない」

「ふむ、オーケーじゃ、あと二つの願ひ事はどうする」

ふ〜む戦闘スキルはもう充分だから、うんやつぱあれかな

「四つ目、かなりの家事スキルが欲しい、いくら強くても家事が出来なきゃ話にならん家事のできない者など論外だ」

「心得た、それでは最後の願いを聞こう」

「その前に能力の追加事項言ってもいいか？」

「構わんが何を追加するのじゃ」

「特定のスキルを除いた全てのスキルに非殺傷設定と殺傷設定を切り替えることが出来るようにしてほしい、それとガードスキルなどの ANGE L P L A Y E R を使って手に入れたスキルは魔力を使わないで出せるようにしてくれ」

「そこまでじゃと最後の願い事を使わないと無理じゃが、使うかの？」

最後の願い事を使わなければいけないか、俺が今まで世話になった人たちに礼を言ってもらおうとしたんだが、しょうがない

「分かった最後の願い事を使う」

俺がそう言うと神様が作業に移った、一分ぐらいですべての作業を終わらすとか早すぎるだろ

「じゃあ行ってくるよ神様、それと願い事じゃなくて頼み事があるんだけど、俺はあの世でも元気でやってるとでもあの少女に伝えてくれ

「相分かったその頼み事聞き入れよう、それでは行って来い、ちなみにちゃんと赤ん坊からの転生じゃからな、ANGEL PLAYERを使うためのの機械は五歳の誕生日になったら送ってやるから心待ちにしとるがいい、それでは良い来世を」

神様がそう言うのと目の前が真っ白になって俺は転生した。

~~~~~そのあとの神様~~~~~

「さてとあ奴のいく世界はどこになるかなーっと」

そう言うのと神様は回っている的にダーツを投げた結果は

「魔法少女リリカルなのは、か確かあの世界には何人が転生者がいたのう、まああ奴なら問題ないじやろう、さて次の転生者はどんな能力を欲しがるやら、まあ恐らくあ奴みたいな奴はそう簡単に現れないからのうあ奴がどんな人生を送るのか楽しみじゃわい」

そう言うのと神様はこの空間からいなくなった

## プロローグ2（後書き）

主人公がチートっぽい能力を得て転生しました。

それと皆様に聞きたいんですが、かなでちゃんの髪の色って何色でしたっけ

この駄文に付き合ってくれてありがとうございます、私には文才がないので暖かい目で見てくださいるととても嬉しいです

これからもよろしく願います

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5032ba/>

---

天使となった男

2012年1月14日02時45分発行